



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	エコフード工場(フード工場棟)	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.2 /5		ふつつ			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.5 /5		がんばろう			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3 /5		ふつつ			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.3 /5		がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.2	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)				
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④ダクトの保温にステンレス等を使用し長寿命化を図っている ④給水管、排水管、給湯管は更新必要間隔が長いものを採用している</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑化指数が20%以上50%未満である</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨省エネルギーに配慮した設計をしている</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪過半数に節水器具を採用している ⑫分別が容易な建材を使用している</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率に基づくスコア換算が3.4 ⑮隣棟間隔指数が0.5以上である、地表面対策面積率が15%以上30%未満である</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 Q-1 3 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 雑排水使用量の削減 2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>			
	"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	2.5
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特になし</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>		
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点	3.3
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱階高にゆとりがある ⑲壁長さ比率が0.13である</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) ⑲ネットフェンスを設置している</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上</p>			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	2.3	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑵生物環境の保全と創出/⑶まちなみ・景観への配慮/⑶敷地内温熱環境の向上) ⑶空地率が40%以上60%未満である、水平投影面積が10%以上20%未満である</p> <p>■敷地外環境対策 (⑶持続可能な森林から産出された木材/⑶温熱環境悪化の改善) ⑶アメダスデータを用いて、風環境を把握している</p>	<p>Q-3 1 ⑵ 生物環境の保全と創出 2 ⑶ まちなみ・景観への配慮 3 3.2 ⑶ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-2 2 2.5 ⑶ 持続可能な森林から産出された木材 LR-3 2 2.2 ⑶ 温熱環境悪化の改善</p>			

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	エコフード工場(フード工場棟)	階数	地上4F
建設地	静岡県静岡市駿河区恩田原・片山	構造	S造
用途地域	市街化区域、工業地域	平均居住人員	50人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年6月 予定	評価の実施日	2023年10月27日
敷地面積	3,487 m ²	作成者	青木 信浩
建築面積	1,589 m ²	確認日	
延床面積	4,908 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.9

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	CASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	その他 特になし
Q1 室内環境	対象外	Q3 室外環境(敷地内) 植栽が多く良好な景観づくりを行っている。
LR1 エネルギー	LED照明を採用し環境負荷の抑制に努めている。	LR3 敷地外環境 適切な量の駐車場を確保している。
Q2 サービス性能	階高が高くゆとりのある構造となっている。	
LR2 資源・マテリアル	省水型機器を使用し水資源に配慮している。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される